

# I N D E X

巻頭文 石原達夫代表

## 山想倶楽部山行記

### 2010年

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 6月：谷川岳（マチガ沢）        | 記：大塚 |
| 7月：車山ニッコウキスゲ&バーベキュー | 記：中川 |
| 7月：飯豊山縦走            | 記：植木 |
| 8月：北ア南岳より上高地        | 記：高橋 |
| 9月：戸隠山と黒姫山          | 記：石原 |
| 10月：伊勢神宮・朝熊山（あさまやま） | 記：石原 |
| 10月：火打山・焼岳          | 記：植木 |
| 12月：天城山（忘年山行）       | 記：中川 |

### 2011年

- |            |      |
|------------|------|
| 1月：赤倉スノー合宿 | 記：石原 |
|------------|------|

## 本部山行

- |                   |      |
|-------------------|------|
| 9月：アメリカンロッキー登頂ツアー | 記：石原 |
|-------------------|------|

## 個人山行

- |                |      |
|----------------|------|
| 11月：四国（石鎚山・剣山） | 記：中川 |
|----------------|------|

随想 奈良大和路・吉野逍遥

～この国が始まった舞台へ～

石岡慎介

写真：立山室堂平の草紅葉

撮影：川井靖元

## 巻頭の言葉

石原達夫

最近、いろいろな人から山に関して質問をされます。

「近頃は、結構年配の人がヒマラヤの高山に登りますが石原さんは行かないのですか」  
ヒマラヤは私の若いころの目標とする山でした。その頃の山登りは、そのための訓練と準備のためでした。若くして山岳会に入ったのもそのためです。結局はサミッターにはなれず、そうこうしているうちに初登頂の時代は終わりました。それは私のヒマラヤ時代の終了でもあったのです。今や最高峰のエベレストでさえ、ルートが確立し、実績ある公募登山隊等もあり、登頂はパイオニアの時代から見れば格段に容易になったと思います。しかしそれは、私が目的としたヒマラヤではないし、体力の衰えた今、死ぬような苦勞して登りたくはありません。もう過去の山となりました。

「でもトレッキングぐらいいは良いのではないですか、あなたの若き日の山々が見れますよ」

それは行ってみたい気がします。でも今すぐではないですね。私の登山人生が終わりに近づいたとき、静かに、センチメンタルジャーニーとして行ってみたいと思います。そんな先ではないかもしれませんが。

「冬山にはもう行かないのですか」

日本の冬の山の遙か先にヒマラヤが見えていました。それ以外の季節では、日本の山はヒマラヤには繋がっていませんでした。そういう気持ちで冬山に行っておりました。私にヒマラヤがなくなったと同時に冬山もなくなりました。そうは言っても雪の山は好きですね、今の体力と残されたスキルで間に合う山には行きたいです。スキーに明け暮れているのは、その雪の山に近づきたいからです。

「今はどんな山に登っていますか」

若いころの山は主として3か所しかありませんでした。時系列的に谷川岳、穂高付近、剣岳付近で、あとは後立山、南アルプス、八ヶ岳が少々という具合に、非常に偏っていました。35歳ころから海外の仕事が担当となり、15年の海外生活もあって、山岳会とは20年以上関わりがなくなりました。その間に岳友とも別れ、山からも遠ざ

かりました。 帰国してからは、私が行ったことのない全国の山々に登ることにしました。 みな初めての山ですが、気にもなりません。 若いころ登っていたどの山のどの岩壁、どの谷、どの稜でも毎回違うところに登っていました。 いつも初めての登攀でした。 現在でも、初めての山に皆さんをお連れしても、迷惑をかけるようなことはないでしょう。

山は有名でなくとも美しい景色のある、あるいは見えるところが良いですね。 歴史上の物語を秘めた山、古街道、修験の山もよいですね。 つまり心に響くものがある山、場所に行きたいと思います。

ぜひ皆さんも同道してください。 1人の山は私には似合いません。

# 谷川岳（マチガ沢）

倶楽部企画/ '10/6 月山行

記：大塚幸美

山行日 平成22年6月6日（日）

コース 東京外環自動車道新倉 PA＝関越自動車道＝水上 IC＝一ノ倉沢駐車場－  
一ノ倉沢と二ノ沢分岐点－駐車場－湯テルメ・谷川－水上 IC－  
東京外環自動車道新倉 PA

参加者 3名 L高橋 聡、小亀真知子、大塚幸美

6時30分、東京外環自動車道新倉 PA に集合。私の車はこの駐車場において同行者の車一台に乗って出発。

高速の走行は順調、7：44関越道赤城高原 SA 着。昼食のパンを仕入れる。

途中、道は少し渋滞もあったが、藤岡ジャンクションを通過すると車はスムーズに流れ出す。関越自動車道水上 IC を約8：10頃出る。

マチガ沢の駐車場はスキーの大会とかで、駐車スペースは全く無い。そのまま一ノ倉沢へ向か8：30 一ノ倉沢駐車場に到着する。後方には笠ヶ岳（大倉山）1852.1mもはっきりと見える。こちらの駐車場も開きスペースはほとんど無い。

8：52一ノ倉沢へ向けて先頭が静かに出発をする。二名も後に続く。ゲートを通過すると直ぐに雪渓が現れる。しかし、表面は大分解けている。シャーベット状だ。

目指すは一ノ倉沢と二ノ沢出会い下部地点だ。ゆっくりゆっくりと登る。



9：43目的地より少し手前で休憩。ここで一先ず、アイゼン無しで斜面の上り下り、トラバースの練習をしてみる。



今度は、アイゼンを装着して歩行練習と停止訓練。



今日の目標とする課題が一通り終了。雪渓を下り駐車場に引き返す13:28着。来た道そのまま引き返す。途中今日の練習予定地だったマチガ沢を少しだけ下車して見ていく。雪渓でスキーをする人影が大勢確認できた。高速に乗る前に汗を流す事にした。

14:07湯テルメ・谷川に到着。お湯は少しぬるい。露天風呂が川のせせらぎを聞きながら入浴できる。2階は休憩所になっている。14:50風呂を後に水上ICへ向かう。

帰りの高速は予想通りの渋滞となった。17:30東京外環自動車道新倉PA到着。ほんのり顔が日焼けした有意義な一日でした。

以上、谷川岳一ノ倉沢の報告です。

# 車山ニッコウキスゲ&バーベキュー

倶楽部企画/ '10/7月山行

記 中川 秀峰

山行日 2010年7月17日(土)～19日(月)

集合場所・時間 啄木鳥山荘 14時頃集合

コース 蓼科山→七合目の鳥居 8:00-蓼科山荘 9:09-蓼科山 9:49-蓼科山荘  
10:20-七合目 11:00 車山→霧ヶ峰 9:00-車山肩 10:00-車山頂上 11:  
00-車山入口 11:40

歩程 蓼科山(全工程3時間) 車山(全工程2時間40分)

参加者 14名 横田、武田、武内、小亀、丸山、森(武)、森(静)、L中川(秀)、  
中川(美)、深田(美)、深田(伸)、大塚(幸)、大塚(淳)、高橋

7月17日(土)

有志の皆さんと買い物をすませて16時バーベキューを開催する。天候に恵まれ夕立ちよけのテントも無駄になったが、なごやかなバーベキューをすませました。

7月18日(日)

11人、霧ヶ峰 9:00-車山肩 10:00-車山頂上 11:00-車山入口 11:40



今年のニッコウキスゲは天候不順のため、まだいまいちでした。天候はすばらしく北アルプスを眺めながらの散策は最高でした。

3人、蓼科山登山(高橋、大塚、大塚(淳))以上の山行を済ませて午後自由解散となる。

18日連泊者

武田、武内、丸山、小亀、森、深田、深田、中川、中川 9人

夜は諏訪温泉片倉館(女工悲話)にて歴史ある館で温泉にはいる。夕食は名物鰻料理



# 飯豊山縦走

倶楽部企画/ '10/8 月山行

記：植木淑美

福島、山形、新潟の三県にまたがる飯豊連峰を久し振りに訪れた。1990年台に友人と二人で歩いた山々を再訪できた上、今回の6名全員が元気で縦走できたことに感謝。

山行日 2010年7月29日(木)～8月2日(月) 4泊5日

集合場所・時間 JR 米坂線羽前椿駅 13時

コース 7月29日 米坂線羽前椿駅(タクシー)→大日杉小屋(泊) 自炊  
7月30日 大日杉→地藏岳→切合小屋(泊) 2食付  
7月31日 切合小屋→本山小屋→飯豊山→御西小屋→梅花皮小屋(泊)  
8月1日 梅花皮小屋→門内岳→梶川尾根→飯豊山荘(泊) 2食付  
8月2日 飯豊山荘9:00発(バス)～小国駅10:14発米沢経由  
(つばさ112号接続)→新宿14:14着

歩程 7月30日 5時間30分 7月31日 8時間 8月1日 7時間30分

参加者 6名 L植木(淑)、深田、丸山、永田、栗林、植木(信)



コースタイム

7月31日

大日杉小屋 4:45→ザンゲ坂 5:15→御田 6:22→だまし地藏 8:00～10 地藏岳 8:45～9:豊本山 7:56～8:05→尾西武 9:40→鬼死後や 9:45～10:213:30

8月1日

切合小屋 5:10→草履塚 5:40→乳母権現 6:05→お秘書 6:12→

本山小屋 7:25～40→飯豊本山 7:56～8:05→尾西武 9:40→鬼死後や 9:45～10:25→天狗岳 →天狗の庭 11:07→御手洗いの池 12:00→烏帽子岳 13:13～30→梅花皮岳 13:50→梅花皮小屋 14:10

8月2日

売俣川小屋 5:30—北俣岳 6:00—稼働地学 7:00—門内小屋 7:02~15 銭のち紙 7:32~50—くさ地 7:50~8:25—梶川美祢 8:30~45 休み—五郎清水 9:25~45—滝見場 10:12~25—湯沢峰 10:50~11:00—休み 4 回—林道ゲート 13:00~10—飯豊山層 13:15

7月30日 金曜日 曇り時々晴れ

JR 米坂線羽前椿駅よりジャンボタクシーで約50分（13,000円）で大日杉小屋へ。水場も野外テーブルもシャワーもある立派な小屋になっていた。この小屋を訪れたのは1994年であった。

7月31日 土曜日 曇り時々晴れ

4時45分、男性群の協力を得て女性群は軽荷で、ゆっくりペースでザンゲ坂をクリアー。だまし地蔵から見上げる地蔵岳はどんと立ちふさがるように聳っていた。切合小屋が近付くにつれ雪渓歩きが多くなる。今年は残雪多しの情報通りであった。雪解けと同時に咲き乱れる花々に歓喜の声上がる。いまいち遠望が利かないのが残念。ひと風吹いたときにやっと飯豊の大きさを知る。



相変わらず雲は低いが天気予報通りと明日の好天を期待して目洗い清水そばのキスゲ咲く草原で湯を沸かしティータイム。ゆったりとした時を過ごす。なんという贅沢。ダケカンバの美しい御坪の前後で時間調整の休みを取り、最後の雪渓は大きく高巻きし切合小屋 13時30分着。全員快調。

8月1日 日曜日 曇り時々霧雨

切合小屋 5時10分出発。飯豊本山が実に堂々と目前にあった。今日も雪渓歩きと雪渓の縁歩きが続く。1週間前は登山道はすべて雪に覆われていたと思われた。あちこちに赤布付きの竹が見られる。御秘所付近の岩場も難なく通過。御前坂の急登に汗を搾られる。両サイドともスッパリと切れ落ちた天狗岳は慎重に歩を進めた。梅花皮岳付近からは、霧雨に泣く。参加者から、このお花畑の見事さは予想外との慰めの言葉に感謝。梅花皮小屋 14時10分着。



17時20分 石転び沢からの単独行の男性到着。朝 5時30分歩き始めたが、雪渓はズタズタでガスが濃くなりルート探しに手間取り危うく遭難しそうだったとの弁。血の気のなくしばし座り込んでいた。トラバース道 数分で豊かな水場あり。

### 8月2日 月曜日 雨のち曇りのち晴れ

朝、風強し。雨の弱まるのをしばし待って梅花皮小屋 5時30分出発。北俣岳山頂もガスで何も見えず、早々に通過。雪渓を渡ってくる風は涼しいを通り越して寒いほど。本来ならば稜線散歩を堪能できたはずのルートを手をよけて早々に枝尾根に入ることとする。扇の地神辺りから急に天気回復。陽光がまぶしい。梶川峯の気持ちの良い草原で大休止。五郎清水へ冷たい水を求めて数名がアルバイト。登りがあるなんて聞いてないよというボヤキが聞かれる中。湯沢峰へ。三日間の疲れが出たのか、ピッチが上がらない模様。梶川尾根の急降下に知らなかったから来られたとの声しきり。すみません。みーんな私が悪いのよ、と私。兎に角、安全第一にと、休みに休み、休み疲れするくらいにゆっくり下山。遂にフィニッシュ。飯豊山荘 13時15分 着。

北俣岳(2024m)と飯豊山荘(400m)その標高差 1600mは急な岩場をはじめとして実に多様な要素を含んでいて面白く、愛の鞭のようであった。やはり忘れられない尾根であった。山荘の掛け流しの湯と豪華なお料理に一同大満足。浴びるほどに麦水、般若湯を戴いた。身体に沁み通った。

### 8月3日 火曜日 晴れ

地域コミュニティバスで小国駅から米沢経由帰途に着く。避難小屋利用の山行の達人になるには、一に水汲み、二に湯沸し、三に共同ゴミ担当にあるのではと一人つぶやいていましたが、如何なものでしょうか？皆さんの頑張りに計画者として感謝、次回の縦走計画に心踊る今日この頃。有難うございました。

#### 印象的だった花々



イイデリンドウ チシマリンドウ アオノツガザクラ チシマギキョウ コオニユリ シナノキンバイミヤマキンポウゲ ウサギギク キスゲ コゴメグサ コバイケイソウ ナンブトウチソウ トモエシオガマ ヨツバシオガマ ハクサンイチゲ シャジンシラネアオイ ヒナウスユキソウ タカネマツムシソウ ハクサンフウロ ナデシコ など多数 以上

# 北ア南岳より上高地

倶楽部企画/ '10/8月山行

記：高橋 聰

場 所 穂高岳周辺

コース 新穂高温泉－槍平－南岳小屋－北穂高岳－奥穂高岳－前穂高岳－岳沢－上高地

期 日 平成22年8月26日（木）～29日（日）

メンバー 醍醐準一、広島孝子、寺田美代子、L高橋 聰

## 8月26日(木曜)

朝6時車で行く醍醐さんに自宅傍にある首都高速西神田ランプ出入口傍に迎えに来て貰い同乗、同行する広島、寺田の両女史は新宿7時発の列車で松本へ。平日でもあり高速道路は空いており、ゆっくり走って松本駅に着き、同行者を待つこと一時間で電車も到着し合流。一路新穂高温泉へ。

新穂高温泉では無料駐車場に車を入れ、12時10分に本日の宿泊地で有る槍平小屋に向けて出発。天候は何とか持つかもしれないが、稜線は雲の中にあり、雷神が今にも鬨の声を上げそうな感じである。気温も高く蒸し暑くて敵わない。少し歩いただけで汗掻きの醍醐さんは全身ずぶ濡れ状態となっている。滝谷の出会いで上部稜線が見えれば、岩場等の説明が出来たのだが、雄滝の少し上よりはガスの中で何も見えず、岩登り大好き人間の私にとって誠に残念である。そうこうするうちに小さなガレ場を過ぎ平らな所に出たので槍平に着いたかと感じたら、すぐに小屋の屋根が見えてホッとする5時15分着。

本日はお客さんも少ないようで静かである。また寝場所も4人で6畳の部屋を与えられ、ゆっくりと寝ることができそうだ。食後部屋に帰り、外を見たら、稜線に懸かっていた雲もいずこかに消え去り、北穂高岳～涸沢岳の稜線が薄墨の中に浮かんで見える。

## 8月27日(金曜)

朝食は5時30分よりなので5時少し前に起床、昨日の疲れを少しでも癒す為と、朝食を摂取し易くなる様にストレッチをして、体を充分に解して洗顔後朝食を摂る。天候はグッドである。本日も暑くなりそうだ。

今日の行動は南岳小屋迄である。昭文社発行の山と高原地図によると標準タイムが4時間と書いてある。休憩を多めに取り、ゆっくりと歩いていっても6時間も有れば

着くだろう。小屋よりは案内標識に従って、小屋の横より直ぐに南岳新道に入っていく、樹林帯に行くこと30分程で南沢に出る。参考にといろいろなブログをみると、時には遅く迄雪渓が残っている時もあるようだが、雪のカケラは全く無く難なく通過。また樹林帯の中急な道を只管歩くだけである。高度も順調に稼ぎ樹林帯を抜けると槍が岳から南岳が望めるようになり、ガラ場をトラバースして最後の岩稜登りとなる。岩稜もほぼ終わり平らになってきたら足もとで何か小動物がうろうろしている。何だろう貂にしては小さすぎる。多分オコジョだろう。写真に撮ろうとしても動きが早く一所に落ち着いていないので、なかなか難しい。それでも何枚か撮っていたら一枚くらいは映っているだろう。ここよりは直ぐに南岳小屋に到着(到着時間12時30分)昨日も1,000メートル本日もほぼ1,000メートルもただ登るだけ疲れた～。明日は下った分だけ登らなくてはならないが、キレットと北穂から涸沢岳の岩稜地帯、気をつけなければなるまい。



### 8月28日(土曜)

今日は今山行のメインイベントであるキレット越えで有る。おそらく使用することは無いと思うが、全員ハーネスを着用してもらい、獅子鼻の頭で北穂と槍が岳をバックにそれぞれ写真を撮り6時10分に出発する。出発してから間もなく5-6メートルくらいの梯子段が出てくるが難なく通過し、キレットの科尔、長谷川ピ

ーク(半世紀前にこんな名前があったかなー)を過ぎA沢の科尔に到着。ここからは時々滝谷を眺めながら、岩尾根を登って行くだけだ。昔の記憶を思い出しながら、滝谷の各ルートを目で探すが崩落が激しく判然としない。10時40分無事北穂小屋着。小屋では各自思い思いの食事を注文し、一時間程北穂小屋で休憩を取って、本日の宿泊場所である穂高小屋に向け出発する。



南峰の先よりは滝谷側を通過するようになるので、落石や転落に注意しながら歩む。三尾根の上部で3人程岩登りを愉んでいるのを望見するが、浮石が多いのか酷く慎重に登っているようだ。

四尾根の最後の部分で有るツルムの頭

の崩壊が激しく岩屑だらけとなっているのには吃驚する。この状態では四尾根は危なくて登れたものではない、稜線から見るとツルムまでもかなりの頻度で崩壊が進んでいるようだ。学生の時に登った剣岳は東大谷の岩場を連想させる。もう自分としてはこれら滝谷の岩場を登ることは無いが、登る人たちはさらなる慎重さが必要となるであろう。

涸沢槍も過ぎ涸沢岳の登り口に雪渓が有り、その傍で何か動いているものが有る。雷鳥の子供たちである。親は何処に居るのだろうか見つからない。子供たちの数を数えると何と7羽もいる。親は何処かと探すと、我々が立っているすぐ下の草藪の中から出てきたので安心をするが、今までの感覚では子供を連れて歩いても3-4であったので、7羽の子供とは本当に驚くだけであった。



涸沢岳の登りは鎖の連続で有ったので、慎重に登って貰い、穂高小屋には15時40分に到着。穂高小屋では涸沢で山と溪谷社主催の涸沢フェスティバルが実施されていた影響か今夏初めてという程の満員盛況の為、畳一畳に2人と言われ個室はと聞いても、早く着いた人から順番ですので有りませんと言われてしまった。仕方ない畳一枚

に2人寝るか。

そのうち女史部隊がある部屋の前にザックが置かれていないのに気づき、ソート部屋を開けてみるとだれもいる様子は無いので受付に訊きに行くと、予約の部屋だったのですが、4時までに到着しない場合はキャンセルとなるのでその部屋は空いておりますとの答えである。個室代がかかっても一人頭二千円部屋の増額となるだけなので、すぐ部屋の変更をお願いする。食事は遅くなっても狭い所で寝るよりもゆっくり寝た方が、明日の為にバッチグーだ。

## 8月29日（日曜）

今回の山行は今日で最後である。窓より見える外の様子は朝焼けがとても素敵である。はるか下界の安曇野に広がる雲海も素晴らしい。

昨日の夕食は3回戦であったのに本日の朝食を摂る人たちは少ないようだ、朝食も摂らずに5時には昨夜宿泊した半数以上の人たちが既に出かけている。

我々は前穂高岳を経て上高地に降りるだけだ。予定では8時間から9時間もあれば上高地迄降りることが出来るだろう。

朝食後6時に出発し、奥穂高岳には予定通り到着しゆっくりと休憩をして、記念写真を撮り7時30分に前穂高岳に向け出発。



本日は山に入って4日目なので疲れが出てきたのか、ピッチが上がらない。紀美子平に9時30分着、少し休み、いよいよ今回山行の最後の登りである前穂高岳の頂上へ。

頂上では北尾根を登ってくる人が結構いる。登ってきた方たちに今のルートの状態を聞いてみたら、ガラ

ガラで前と比較すると面白さが半減状態との事であった。

頂上では本当に天気良く、遠い所まではっきり見えてとても気持ちが良い。

見渡す限りの山を説明していると何時の間にかかなりの時間を使ってしまい、あわてて下山したが、紀美子平に降りてきたのが11時30分となり、ほとんど休憩を取ることなく下山に懸かり、14時20分に岳沢小屋に着いた。

ここからは本当に一般登山道。何でも無い良い道を、休みながらゆっくりと上高地へ降りて行っても2時間だ。

広島、寺田の両女史は一昨年このコースを歩きに来たのですが、雨の為中止となり槍が岳より下山してしまったので、今までの想いが叶い大変感激していたようです。

ちなみに寺田さんは電子メールをお持ちで無いので、大塚副会長に依頼して電子メールで山想倶楽部の皆様に流した言葉を書いておきます。

山想倶楽部の皆様

こんにちは。北アルプス南岳～上高地幸いに毎日、好天に恵まれ緊張と冷や汗の繰り返しでしたが、全コース、無事 登り、帰宅致しました。前穂、山頂の360度の素晴らしい展望に・・・まだ酔っている気分です。

寺田美代子

## 日本山岳会 集会委員会主催「アメリカンロッキー登頂ツアー」に参加

記：石原達夫

日時 2010年9月1日（水）～10日（金）

参加者 20名

今回の登頂ツアーの対象となったロッキー山はコロラド・ロッキーでして、通常私どもがイメージする急峻な山々で知られる北部ロッキーとは山容はだいぶ異なります。総じて標高は高いが穏やかな山が多く、そのため有名なスキー場がある地域です。

出発から帰国まで10日間の長い旅程でしたが、その内の登山に関わる所だけ、かい摘んで報告します。

出発日の9月1日は国際便の遅発に端を発し、待ち時間の多い一日となったが、ようやく揃ったメンバー一同これから8日間我々を運んでくれる大型バスに乗り、デンバー空港からコロラドスプリングスのホテルに予定より相当遅れて到着した。

到着の翌日の2日は、時差ぼけのまま、コロラドスプリングスから近いパイクスピーク、4,300米にバスと登山電車に乗り継ぎ、歩くことなく山頂に到達した。



ホテルを出てから約3時間であった。

これは登山とは言えないが、今後の4,400米近い登山をするにあたっての、各々が自分の高所順応の程度を実感するには良い計画だったと思う。

その後、スキー場を巡る3,500米以上のバス観光ツアーを重ね、高度順化をすすめて、9月4日に、エルバート山のふもとに近いレッドビルに宿泊した。

エルバート山、4,399米は、アラスカを除くと、米国内第2位の標高があつて、長大なロッキー山脈中の最高峰であり、その意味から人気の山である。

因みに第1位はカルフォルニア・ネバダ州境に横たわるシェラネバダ山脈の最高峰で、急峻なホイットニー山、4,412米だ。



さて、我々が辿ることになったエルバート山のコースは、幾つかある登山コースの中では最長で、且つ南峰を含む幾つかのピークの上り下りを含む、片道 11 マイルの南東尾根ルートからの往復であった。

5:20AM の未明からヘッドライトを点け登山開始した。 樹林帯を抜けると急な岩石帯につけられたトレイルをたどる。稜線に出たところで強風に見舞われて、ここで不調の何人かが登頂を断念しガイドとともに下山した。

ここでガイドの数が減ってしまったのが、後々パーティの分散の対応が厄介になったと思う。 稜線に出て初めてエルバート山のたおやかな山頂が、思いかけない遠方に見えるようになった。 天気は悪くはなかったが稜線は強風で、場所によっては風速 25M を超える強さで、これで意気消沈した人も多かったのではないかと思う。 後で知ったことだが南峰では女性 2 名の断念者が出て、稜線はトレールも僅かなところがあるのだが、2 人だけで下山したという。



山頂には早い組が 11:20AM 頃到着し、遅い組は（自然と別れてしまったのだが）その約 30 分後に到着した。



山頂は多くの方がおり、我々以外は別の 2 つの容易なコースから登ってきたようで、次々と上り下りする人達が見えた。大型犬が数匹か登山者に連れられて登っていた。最終到着組は、



気の毒に時間の関係で僅かの休憩しか取れなかったのではないかと思うが、下山は一同揃って歩いた。登りに使った長いトレイル下山路としてたどり、5:10PM 頃に車の待つ出発点に戻った。

間 1 日を置き、9 月 7 日には、同じく所謂コロラド 14,000 フィート山群のグレイズピーク 4,350 米と隣接するトレイルズピーク 4,347 米

に登った。

4WD 車に揺られながら 1 時間近い悪路を登り、スタート点のスティブン溪谷に到着した。この地点の標高は、既に 3,500 米あり、目的とするグレイズピークとトレイルズピークの山頂が望める。

前々日のエルバート山登山の学習からか、1 山だけ登る組と、2 山とも登る組に分けられ、各チームとも余裕を持って登山を開始した。この日は雲一つない快晴の上に風も穏やかで、すばらしい光景を楽しみながらの登山であった。

この双子の山はアプローチの短さと、登りの容易さで人気が高く、多くの人々が登るようで、この日も駐車場は一杯の車が停まっていた。グレイズピークの登山路そのものは、何の問題もない極めて容易なものだが、山頂に続く左右の尾根は険しい山容を示していた。



山頂からの眺めは広大で四方とも 4,000 米級の山々で、広大なスキー場が幾つも望まれた。帰りはトレイルズピークの山頂より慎重に先ほどのコルまで下り、並行トラバース気味にグレイズピークを巻くようにたどるとグレイズピークのトレイルに合流する。緩やかな斜面に出て、ようやく始まったしば紅葉をめでのしばしのプロムナードで出発地に戻った。

結果としてみれば、エルバート山を含めても、標高 4,300 米級のハイキングを楽しんだというところだろうか。

最後の急な登りが終わるとグレイズピークの山頂にでた。次いで、山頂からトレイルズピークとのコルに下り、剣岳の別山尾根の前剣の登りのような感じの砂礫地帯を登りトレイルズピークの山頂に至る。



# 戸隠山と黒姫山

倶楽部企画/ '10/9 月山行

記：石原達夫

山行日 2010年9月18日(土)～20日(月) 2泊3日

集合場所・時間 赤倉ユアーズイン PM5:00各自集合

コース 19日赤倉ユアーズイン=奥社入日―戸隠神社奥社―八方呪―戸隠山―不動―戸隠キャンプ場=宿泊

20日赤倉ユアーズイン=大橋登山ロー古池―新道分岐―峰の大池分岐―黒姫山―峰の大池―黒姫乗越―姫見台―黒姫高原駅

歩程 19日(7時間) 20日(7時間)

参加者 7名 L小笠原、広島、石原、武田、横田、寺田夫妻、山村

コースタイム 赤倉ユアーズ・イン7:30出発―奥社入日8:40出発―八方呪み11:15着～大休止後12:20出発―戸隠山14:50頃着～15:00頃下山―牧場4:15頃着―ユアーズイン17:20頃着

9月18日から20日まで、小笠原さんのユアーズインに宿泊し、小笠原さんのガイドで戸隠山に登りました。20日は黒姫山登山を予定していましたが、夜半より降りだした雨のため中止し、遅い朝食後解散しました。

## 18日(土)

三々五々ユアーズインに集合しました。

今回の参加者は、退院直行の寺田さん、坐骨神経痛治療中の寺田夫人、肺炎治りかけの武田さんの特別参加に加えて、横田さん、広島さん、石原、石原友人の山村さんでした。

## 19日(日)

7:30、全員が小笠原さんと横田さんの車に分乗し、横田車を下山地の牧場のキャンプ地に駐車、小笠原さんの車で奥社駐車場に移りました。景勝地散策組の、寺田夫妻、武田さんと別れ、奥社に今日の安全を祈願し8:40頃を登山開始しました。



苦しい急な登りが終わると、五十間長屋、次いで百間長屋の下を巡るころから雲行きがおかしくなりましたが、このあと何とか持ち直しました。

小笠原さんの指示によりベルトを着けると、間もなく鎖場が現れ、次々に現れる鎖場は段々と長く、急になり高度感を感じるようになりますと、いよいよクライマックスの蟻の戸渡りに到達します。



すでに後ろに若者たちの長い待ち列が出来たため、小笠原さんの判断でトラバースルートをたどり、剣の刃渡りではロープで確保してもらい無事通過すると、直ぐに八方睨みに到着しました。 11:15頃でした。

小笠原さんの的確なリードで、最大難所は終わりここでベルトを外し、昼食としました。急峻な西岳、高妻山を真近に見て、遠くには頭だけの火打山、妙高山が見えました。



大休止の後は 12:20 に行動を再開し、次のピークの戸隠山山頂では記念写真だけで休むことなく、断崖の縁にあるトレールを慎重に辿ります。スリップすれば眼下に見える奥社裏まで 1,000 米は転落するでしょう。



九頭龍山など幾つかのピークを上り下りし、左手に白馬連山を垣間見て、約 2 時間半弱かかって、やっと不動避難小屋に到着しました。ここは 100 名山の高妻山との分岐点で、高妻山は高年者の登山者が、そうでない戸隠山は若者の多い山と、対照的でした。15 : 00 頃から下山を開始し、登山路が川に入ると 2 か所の滝を鎖で下り、川から外れるようになると直ぐに牧場に到着しました。4 : 15 頃でした。ここで散策組と合流しました。車でユアーズインに 17 : 20 頃帰着しました。登山組は心身とも疲労したようですが、散策組もだいぶ歩いたようで、それぞれ今日の成果に満足して、早速に宿の温泉で汗を流しました。

# 伊勢神宮・朝熊山（あさまやま）

倶楽部企画/ '10/10月山行

記：石原達夫

日時 2010年10月27日（水）～28日（木） 1泊2日

集合場所・時間 伊勢市駅 11:03 集合

コース 10月27日

東京駅 7:33 ひかり 503-名古屋 9:21 名古屋 9:35 JR 快速みえ 1号-  
伊勢市駅 11:03 徒歩にて外宮、次いで武田車で内宮-猿田彦神社-神宮会  
館に宿泊

10月28日

神宮会館-武田車にて朝熊山登山口-山頂-登山口-伊勢市駅  
伊勢市駅 13:19 JR 快速みえ 12号-名古屋 14:58 名古屋 15:23  
ひかり 520-東京 17:10

参加者 4名 L武田頼子、中野八千代 石岡慎介 石原達夫



コースタイム 10月27日

JR 伊勢市駅集合（11:03 着）し、  
まずは腹ごしらえしてから、という  
ことで中野さんの案内で外宮入り口  
前の食堂（シラスを売りもの）で昼  
食。まずは順序に従い外宮から参拝  
する。 JR 車中では途中まで晴だっ  
た天気、この辺りから曇りに転じ  
る。

外宮の火除橋を渡ると境内となり神

聖な雰囲気になる。御正殿に参拝、ついで土宮、風宮を拝し、石の階段を上り、豊受  
大神の荒御魂を祭る多賀宮に参拝する。

武田さんの車で、内宮に行くも、駐車場満車の様子で、おかげ横丁の裏手にある中野さ  
んの実家の駐車場に車を停めさせてもらう。 おかげ横丁では神宮太鼓の実演があり  
それを見る。 平日ながら人出の多いのには驚く。雑踏の中をおはらい町から内宮正面

にでる。新しく掛け替えた宇治橋を渡る。火除橋は左側通行だったが、ここは右側通行で少し戸惑う。橋の上流側にある一連の柱は流木除けだと武田さんに教わる。五十鈴川のほとりにある御手洗場（みそぎの場所）で手を清め、真新しい風日祈宮橋を渡り、風日祈宮にお参りする。天候に左右される登山者にはお参りしなければいけないお宮である。渡り返して御正宮に進み、謹んで参拝する。平成 25 年の第六二回式年遷宮先になる板塀で囲われた御敷地の前を通り、天照大神の荒御魂を祭る荒祭宮を拝す。少し先に鎮座する山の神である大山祇神社とその手前の小ぶりの小安神社に詣でる。小安神社には子宝授けの祈念の鳥居型のお供えが幾つか置いてあった。

内宮の参拝が終わると雑踏のおほらい町を歩いて車に戻り、すぐ近くの今日の宿舎となる神宮会館に駐車する。これから歩いて、猿田彦神社とその境内にあるアメノウズメノ命をおまつりする「さるめ神社」に参拝する。宿舎の神宮会館に入り、夕食まで歓談の時間を過ごす。

#### 10月28日

予想に反し台風 14 号の影響か朝から雨降りになる。

折角だから、予定通り朝熊山に行こうということで、武田さんの車に乗る。

有料の伊勢志摩スカイラインに入り、しばし走行ののち、中野さんの的確な指示で横道に入る。初めに紀州犬を見ようということで、その家に行ったが、雨のためか目的の犬の姿は見えなかった。次に地図上の一等三角点のある地点に行く。三角点は、少しわかりにくい小高い木立の中にあっただ。この辺りの鬱蒼とした木々に覆われた一帯が御木本翁の別荘のあったところとかで、今でも石垣の一部分が残っている。その台地の北西端は展望のよさそうなところだが、今日は霧のため何も見えない。

車に戻り、次に朝熊峠を経て朝熊山（地図では朝熊ヶ岳）山頂に至る。標高 555M の山頂には宿泊できそうな立派な八大竜王のお社がある。ここも展望がきかないし、雨風でうすら寒いので早々に立ち去る。

次は朝熊山経塚群跡で、そこかしこに五輪塔のような納経塔が散在している。伊勢湾台風の影響、この辺りは相当に崩れ、その際に色々な出土品があり、その中の古い納経筒は国宝に指定され、金剛証寺に保管されていると説明の掲示板にあった。金剛証寺は、伊勢神宮の鬼門を守る寺で、古くは「お伊勢参らば、朝熊駈けよ朝熊駈けねば片詣り」とうたわれ、賑わった神仏混淆の寺という。

今日の強い雨の中、金剛証寺には訪れる人も少ない。階段を上り仁王門をくぐると右

手に池のある境内になる。池にかかる朱塗りの雨宝蓮殊橋が見立つ。矢負地藏尊で願をかけ、小さい石地藏を持ち上げては「叶いそう」とか「駄目そう」とか言っている。本尊の日本三大虚空蔵菩薩の筆頭と言われる福威智満虚空蔵菩薩の収められた本堂を拝み、雨中そうそうに退出する。奥の院は歩いて行ける距離だが強い雨なので、車で入り口まで運んでもらう。竜宮城の入り口のような極楽浄土の門をくぐると、通路の両側は巨大な柱のごとき卒塔婆でびっしりと隙間なく繋がって、あたかも巨大且つ長大な木製の障壁のようだ。手前左側には関ヶ原の合戦で自刃した九鬼嘉隆の五輪塔があり、一方先の大戦で自らも戦死した詩人竹内浩三の詩の石碑がある。

アア 戦死ヤアワレ 兵隊ノ死ヌルヤアワレ コラエキレナイサビシサヤ . . .

展望が開けて着いたところが奥の院で本尊は延命小安地藏尊である。右手は富士見台茶屋だががらんとしていて、もう営業はしていないのではないかと思う。建物の右手前には一休禅師の石碑がある。一带は多くの新旧の地藏尊の石像が赤い布帽子をかぶって立っていて、その先に歌舞伎でも有名な「油屋騒動」のお紺の墓があった。

雨足も強いので山上広苑は敬遠して車に戻り、旅館とうふ屋跡を見る。この旅館は戦時中のケーブルカーの廃止に伴い客足が激減したために宿泊営業は止め、その後は売店のみオープンしていたが、昭和 29 年の火災で焼失したと説明板にある。それにある写真を見ると大きな旅館であったようだ。山道をスカイラインに戻り、伊勢口に帰り、五十鈴川の橋を渡ったところにある「てこね茶屋」でそれぞれ名物の「てこねすし、伊勢うどん」を食し、満足して JR 伊勢市駅に送ってもらい、ここで解散した。神と仏に会う神妙な 2 日間であった。



# 火打山・焼岳

倶楽部企画/ '10/10月山行

記：植木信久

日時 2010年10月9日(土)～11日(月) 2泊3日

集合場所・時間 妙高高原駅 10:15集合

コース 9日東京駅7:28発 新幹線あさま505号、  
長野駅乗り換え妙高高原駅10:06着 タクシーにて笹ヶ峰へ笹ヶ峰－  
黒沢橋－富士見平－高谷池ヒュッテ泊

10日高谷池ヒュッテ－火打山－焼山－火打山－高谷池ヒュッテ泊

11日小屋－笹ヶ峰＝バス妙高高原駅＝長野駅＝東京

\* バス1130発－妙高駅1220着、1247発－長野1329着、  
長野より新幹線あさま528号13:47発

歩程 9日(4時間) 10日(9時間30分) 11日(3時間)

参加者7名(F)深田美好、深田伸代 石原達夫、森静子、廣島孝子、植木よしみ、  
(L)植木信久

## コースタイム

### 10月9日 第1日目

笹ヶ峰登山口 11:00－途中昼食 20分－黒沢橋 12:20－十二曲がり－富士見平－高谷池ヒュッテ 14:50

### 10月10日 第2日目

高谷池ヒュッテ 7:25－天狗の庭 7:50－雷鳥平 8:30－火打山 9:15/9:50－天狗の庭 10:50－11:00－高谷池ヒュッテ 11:20－12:10－茶白山 12:45－黒沢池ヒュッテ 13:15

### 10月11日 第3日目

黒沢池ヒュッテ 6:20－大倉乗越－長助池分岐 7:30－妙高山 9:00/9:30－天狗堂 11:00/11:30－大谷ヒュッテ－新赤倉山頂ゴンドラ山頂駅 13:00



## 山行報告 火打山、妙高山

天気が悪い3日間でした。それなりに楽しい山旅ができて感激しています。

10月9日、妙高高原駅で予約していたジャンボタクシーで笹ヶ峰へ向かう。

今にも雨が降りそうな空模様、これからの登山が案じられた。

笹ヶ峰の火打山、妙高山登山口には連休でかなりの車が入っていた。また、これから登る登山者が数組支度中、笹ヶ峰登山センターで登山届を提出し山道に入る。まもなく、雨が降り出し、早速雨具着用となる。夏の暑さのせいかわ、紅葉はいまいち、だが、かわいいキノコがあちこち顔を出している。秋が少しずつ深まっている。まもなく十二曲がりの急坂、ピッチを落としてゆっくり、ブナやミズナラの林を登る。黒沢池ヒュッテへの分岐富士見平の道標を過ぎ、雨は本降りとなる。オオシラビソの間に三角屋根の高谷池ヒュッテが見える。ヤレ、ヤレやっと辿りつき一安心。濡れた雨具を物置のロープに掛け小屋に入る。何人かの小屋番がいたが、誰一人雨の中を登ってきた登山者にねぎらいの言葉もなく、事務的に小屋利用の説明をしていた。

ネットでも評判の良くない小屋と書かれている。これも、完全予約制で妙高市観光協会が親方日の丸で営んでいるからかな？



10月10日、昨夜来風雨強く、登山道も滑りやすく危険な為、残念だが焼山行きは中止とした。朝食後、荷物をヒュッテに置き、空身で火打山に向かった。雲の流れが速く時々陽が差し、降雨の心配なし。天狗の庭は紅葉したナナカマドやモウセンゴケと池糖のコントラストが良かった、すばらしい景観であった。ハイマツが生い茂る雷鳥

平で、以前いたライチョウは何処にいったか、呼んでも現れない。ハイマツの間の石ころ道を登って、標高2462mの火打山頂に着く。

ガスがたち込め念願の焼山は望見できない。ゆっくり休憩を取り、往路をもどる。高谷池ヒュッテに連泊の予定を急遽変更し、今夜は黒沢池ヒュッテに宿をとることにした。女性群が水を貰いに行ったところ、小屋番の大柄な態度で閉口したとのこと、昼食後

早々と退散し、約1時間の行程で、青い八角型ドームの黒沢池ヒュッテに13時15分到着。

Hさんがオーナーと知り合いで何かと都合をつけてもらい、有名な八角型のドームに泊まることができた。

夕食までの時間があったので、紅葉に染まる高谷池を散歩、Mさんがブルーベリーを摘んでくれて、いい思い出となった。17時前夕食の音がかる。ご飯と味噌汁、シーチキン、煮物、煮豆で二日連続のカレーでなくホッとした。

10月11日、今夜も夜中に雨音が聞こえ、天気が心配だ。朝5時にこの小屋の定番のクレープとコンソメスープ、コーヒーを戴く。

明け方まで雨が降っていたが、小やみになったので妙高山に向けて6時20分出発。

注文した弁当はマルちゃんの五目飯と赤飯のセット、なかなか乙で旨い。大倉乗越を過ぎ、長助池分岐から一旦120m下り山頂へは400mの長い登りが待っている、小屋を出て2時間40分で妙高山2454mに到着。

青空も広がり、北西に火打山、影火打、円錐形の焼山がハッキリ姿をあらわし一同感激。北アルプス槍ヶ岳、鹿島槍、白馬三山等の山座同定し、その勇姿を垣間見ることができた。30分山頂で休み、急降下で天狗堂に向かう、お堂には玉造霊神が奉られ、往事の道祖神のお役目が偲ばれる。



燕温泉にくだる計画をしていたが、赤倉のゴンドラが動いていたので、妙高高原スカイケーブル山頂駅までルンルン気分で行った。

# 四国（石槌山・剣山）

個人山行/ '10/11 月山行

記、中川秀利

日時 2010年11月7日～11日（4泊5日）

交通手段 JAL（往復）四国内レンタカー移動

コース 7日（日）高松空港－金毘羅さん－剣山登山口－ラ・フォーレ剣山

8日（月）ラ・フォーレ剣山－登山口－西島駅－剣山頂上－登山口－見ノ越－美馬市より高速道－松山道後温泉

9日（火）道後温泉－石槌スカイライン登山口－面河（おもご）溪谷－黒潮町

10日（水）四万十川観光－沈下橋－高知市桂浜荘

11日（木）高知市内観光－高知空港発－羽田

参加者 2名 中川秀利、美佐子

コースタイム 11月7日 高松空港9：30着→宿舎ラ・フォーレ剣山16：00着

11月8日 8：00登山口－西島駅8：40－剣山頂上9：30－下山10：00－登山口11：30見ノ越12：00－美馬市より高速道路－松山道後温泉15：30着



11月7日（日）晴

高松空港9：30着レンタカー手続き後金毘羅さん参りに出発石段840はよいトレーニングになりました。美馬市を経て剣山登山口の見ノ越まで道路幅の狭い1台がやっとの運転で宿舎ラ・フォーレ剣山に16：00到着（標高1500m）

11月8日（月）晴

7：00朝食すませる。リフト

運転が9：00開始ということで歩くことに決める。8：00登山口－西島駅8：40－剣山頂上9：30－下山10：00－登山口11：30頂上付近はなだらかな地形で笹におおわれたやさしく美しい山でした。快晴であれば瀬戸内、太平洋が見渡せると聞いていたが雲におおわれ残念でした。見ノ越12：00－美馬市より高速道路－松山道後温泉15：30。

### 11月9日（火）

朝6:00 道後温泉本館に入湯天気が気になるが石槌スカイライン登山口まで行く、途中道路告知版で雪のため道路閉鎖を知る。スカイライン入り口で詳しく聞くと石槌山荘付近（1500m）では10cm ぐらい降りそのまま凍結してしまった。レンタカーにはチェーンの用意もなく残念な思いをした。急遽予定変更、面河（おもご）溪谷の紅葉を散策ホエールウォッチングで有名な黒潮町に泊まる

### 11月10日（水）晴

本日は四万十川を下流から上流に観光をする。沈下橋、独特な生活風習など興味深いものがありました。

16:00 高知市桂浜荘に到着。

### 11月11日（木）晴

市内観光（高知城、竜馬史跡）幕末志士の墓参 14:00 高知空港発一羽田。



高知城、竜馬史跡

# 天城山（忘年山行）

倶楽部企画/ '10/12 月山行

記：中川秀利

日時 2010年12月11日（土）～12日（日） 1泊2日

集合場所・時間 ホテルヴィラージュ伊豆高原 16時集合

コース ホテルヴィラージュ伊豆高原－登山口－万二郎－万三郎（往復）－登山口解散

歩程 12日（約5時間30分）

参加者 16名 敬称、順不同

田矢八束、石原達夫、高橋聰、大塚幸美、横田昭夫、寺田正夫、小亀真知子、丸山さかえ、廣島孝子、植木淑子、醍醐準一、深田美好、深田伸代、植木信久、中川美佐子、L中川秀利

コースタイム 8:30 登山開始－9:10 万二郎岳－10:30－万三郎岳（昼食）－12:30 瀬沢分岐点－13:40 四辻－14:00 登山口。



11日、16時までホテル 伊豆高原ヴィラージュに集合した。

オーシャンビューの温泉に入る。和やかな夕食を済ませ来年度山行計画を語り合う。

12日、7:00 朝食－7:30 ホテル出発－8:30 登山界シー㊟；10 万次郎岳－10:30-万三郎岳（昼食）-12:30 瀬沢分岐点－13:40 四辻－14:00 登山口。



天候に恵まれ伊豆大島や雪化粧の富士山を観ることができた。  
歩行時間は休憩を含み5時間半、車で帰京するには丁度よい運動でした。  
登山中も楽しい会話が下山口まで休みなく続いていました。

# 赤倉スノー合宿

倶楽部企画/ '11/1 月山

記：石原達夫

山行日 2011年1月28日～30日 2泊3日

集合場所・時間 新赤倉・ユアーズイン

コース 1月28日：正午までに宿舎に到着。午後1時より行動開始、2班に分かれます

- ①ゲレンデで足ならしする班、
- ②スノーシューでハイキングする班（小笠原さんが案内する）

1月29日：3班に分かれます。

- ①終日ゲレンデで滑る班、
- ② 半日オフゲレンデを滑り、午後ゲレンデに戻る判（小笠原さんが案内する）
- ③ノシューハイキングする班

1月30日：2班に分かれます。

- ①午前中半日ゲレンデで滑る班
- ②テレマークスキーでゴルフ場内の雪原を利用してネイチャースキーの体験班  
午後1時解散となります。

以上は、当日の天候の具合にもより変更もあります。

歩程 1日目約4時間 2日目約5時間40分 3日中止

参加者：16名 高橋聡、高橋文雄、広島、武田、永田、沼田、L石原、中川（29日～30日）

横田（29日-30日）、関口（前泊、28日-29日）

会員外参加者：山村夫妻、沼田子息夫妻、石原夫人（以上3日間）、中川夫人（2日間）

コースタイム

1日目

【スキー組】赤倉スキー場へ（13:20）→ゲレンデ→4時前に終わりスキーにて宿舎に戻る

【スノーシュー組】妙高高原ビジターセンター2時間コースの「キツネ」

2日目

【スキー組】戸隠スキー場（10:15）→林間のオフピステ、ゲレンデ、ポールも試す  
もう1本だけ林間を滑る（13:15）→スキー場を立ち（14:25）→スノーシュー組の2人ピックアップ宿舎帰還（15:30頃）

【スノーシュー組】奥社参道入口（9:50）－隋神門－戸隠森林植物園－天命稻荷－鏡池  
－往路をたどり奥社入口（12:30）、蕎麦屋に入り昼食。

3日目中止

スキー組とスノーシュー組に分かれて行動

1月28日

正午までにそれぞれユアーズインに到着。

午後

スキー組は小笠原さんの車で赤倉スキー場へ（13:20）、ホテルゴンドラ、リフトを使い、ゲレンデにて足慣らしをする。降雪とガスで見通し利かず、あまり楽しいスキーではない。

4時前に終わりにしスキーにて宿舎に戻る。

スノーシュー組（武田、永田）、は小笠原さんのリードで、妙高高原ビジターセンターからスタートする2時間コースの「キツネ」トレイルを歩く。

1月29日（晴れのち曇り、雪）

朝到着の中川夫妻は、赤倉スキー場へ、沼田一族は杉の原スキー場へその他のスキー組と、スノーシュー組は、小笠原車、高橋車、直接到着の横田車に分乗し、スノーシュー組とは奥社入口で別れ、スキー組は戸隠スキー場に向かう。



スノーシュー組は、2人で奥社参道入口（9:50）－隋神門－戸隠森林植物園－天命稻荷－鏡池－往路をたどり奥社入口（12:30）、蕎麦屋に入り昼食  
スキー組は戸隠スキー場（10:15）リフトを使い上部にでて、禁止されていない場所を選んで林間のオフピステを滑る。少しゲレンデで滑り、ポールも試しにやってみる。

昼食はいろいろ意見があったが、「くえい」食堂でそばを食す。午後は天候も下りになったので、スキー場に出て（13:15）もう 1 本だけ林間を滑る。皆午前より大胆になってコース取りも上手くなる。

名残惜しいが、スノーシュー組が待っていると思われるのでスキー場を立ち（14:25）、スノーシュー組の 2 人が待ちわびている奥社入口でピックアップする。宿舎に帰還する（15:30 頃）



## 1 月 30 日 （風雪）

夜半からの風雪で新雪が 30 c m 以上積もる。夜を徹して除雪する車両の音が響いていた。小笠原オーナーは早朝からブルドーザーを使って敷地の除雪に忙殺されている。

サッカーのアジア杯大会では日本代表チームがオーストラリア代表チームを制し、優勝したことを知る。

天気予報はさらに風雪は続くとの事なので、交通機関の不通（信越線は妙高高原駅より先はすでに運休）や高速道路の閉鎖を恐れ、今日の行事は取りやめ、ロッカーテールスキーの威力を試したい山村夫妻を除き、急遽帰宅する事になった。まずは、車を雪から

掘り出し、それぞれ分乗し（8:45）順次、ユアーズ・インに別れを告げ、帰宅の途に就いた。



#### 雑記

今回の合宿は、宿舎を共にし、参加者の相互親交を深める、ということに主眼を置き、行動そのものには自由度を持たすという形にした。これにより多数の参加者を得て、当初の目的を果たしたものと思う。また会員外の参加も増え、低迷気味の行事に活気を与えたことはうれしい事であった。北九州から遥々の参加の関口氏には敬意を表します。

随想

## 奈良大和路・吉野逍遙

～この国が始まった舞台へ～

石岡慎介

古来この国の山野を彩る春の使者といえは錦織り成すヤマザクラ。

橿原、畝傍山に建国の始まりを想い、天皇陵を奈良盆地に、吉野山に櫻暦を追う旅に出た。折りしも 125 代萬世一系皇統の今上天皇と美智子皇后の金婚式の慶事と重なった。

首都のソメイヨシノは散り始めたが、三島あたりの車窓から久し振りの富岳に魅入ると、里櫻が裾野を彩り春霞にニョッポリ煙っていた。秋田、岐阜、千葉、埼玉、神奈川、東海、東京から総勢 13 人の岳徒が京都駅に 10 時過ぎに集結。橿原神宮駅にて下車、駅前旅館で荷を置き大和の周遊となる。

神意堂々というのか、由緒ある橿原神宮の門柱には紀元 2669 年とあり、皇紀元年から数える平成 21 年の復古調である。キリスト誕生が西洋文明の魁となる西暦を 669 年遡る。昔流儀に従えば、神話と伝承を重んじ、森羅万象全てに神宿る大八島も、これからどんな国柄となるのか、どこへ向うのか漂流するイメージが脳裏に浮かぶ。

神宮境内はシラカシ、ウバメガシ、イチイガシ、シイ、クスが鬱蒼と生い茂り、まさに「鎮守の宮」である。

新緑の 楠よ椎よと 打仰ぐ (高木晴子)

縄文時代からカシ類の群生地だったようで、カシハラにも通じるらしい。

照葉樹林帯研究の泰斗がおられる横浜国大にお尋ねすれば、この地こそ全土に散らばる

「鎮守の森」総本山というかもしれない。拝礼記念として植樹用の幼木が売られていた。参拝してから大和の最高峰で標高（199.2 ㍎）の「畝傍山」に登る。この女峰を巡って香具山（152.4）耳成山（139.7）という男二山が相争い、出雲の国の大神が仲裁するという「三山伝説」の舞台で、万葉人が山一つひとつを人格視して詠っている。争いは人の業、変わらないのは今も昔も人の心らしい。広さ 41 ヘクタールほどの里山で、うねびの意味は “火がうねる、” とか太古は小火山であったのだろう。山中で歌碑に気づく。絶え間ない王権争いに心痛める宮廷歌人としては、畝傍の山麓で初代天皇によって始まった建国をどう物語りたいのだろうか・・・

たまだすき畝傍の山の櫃原のひじりの御世ゆ生まれまし（柿本人麻呂）

三等三角点がある畝傍山頂上からは、西に金剛、葛城、二上山、北に生駒、東に藤原京の遺跡があると地元女性が指差し説明してくれた。藤原京といえば平城京をしのぐ日本最初の都城で、持統、文武、元明天皇 3 代 16 年続いた栄華の旧都でもっと認識深めてよい。

下山してからは神武天皇、二代綏靖天皇の陵墓に向う。欠史 8 代の天皇陵の一部だが、神話が息づく太古の時代にタイムスリップする。樹木が密生した墳丘で柵が拝所に近い。森蔽としたたずまいは、自然崇拜の精霊信仰が漂うようだ。古代国家へ回帰できるよう辺りは素朴な趣に溢れ、大和する祈りの場となっていた。

歴史ハイクは一気に室町時代、江戸期までくだり、櫃原市の今井町という重要文化財に初めて踏み込む。室町期からの自治集落で「寺内町」と呼ばれ、環濠で武装した宗教都市を見学する。説明によれば、堺と今井町は当時としては治外法権的な地方自治の最

先端であり、両地域は歴史街道として結ばれ、飛鳥を抜けて大阪へ通じる横大路であった。今井郷の自治組織の由来は一向一揆に結びついているが、430年前の信長のご赦免状あり、秀吉の朱印状、家康のご禁制書ありで、歴代の支配者が認めた地方自治の雄が髣髴としてくる。「弥念寺」という一向宗の道場が中心だが、かなり荒廃した歴史遺産も訪れた。

翌日12日は行楽日和、電車で移動、橿原から大和上市まで花見客で一杯！奈良交通バスに乗り継ぎ吉野川に沿って上流へ、9時半ころ林業の里川上村に入る。音無川に落ち込む「蜻蛉の滝」を見物してから吉野杉の林道をひた歩む。暴虐な天皇として有名な第21代雄略天皇の蜻蛉伝説が表示されていたが、芭蕉や宣長も訪れた様だ。

「東海自然歩道」の山越えとなるが、足下にはカタバミが楚々とし、杉伐採後の傾斜地は萌黄色のクロモジ大群落の中を歩む。シデコブシもネコヤナギも早春を謳歌し、庭園木として人気あるソヨゴが多かった。

12時すぎ標高857.9メートルの「青根が峰」に着き昼食。

ベテラン岳人が2時間以上行方不明となり、秋田、岐阜山人が探索に出たが、幸い頂上昼食中にヒョッコリ現われた。途中リーダー心得を諭す標語が掲示されていたが、「先頭リーダーより先に出るな、殿より遅れるな」の鉄則が思い浮かぶ。行程が不案内になれば、リーダー中心に地図と標識とコンパスで同行仲間全員が話し合い確認しあって進路決定するしかないだろう。

無事に一山越えて吉野町に入ると舗装路となり、参道は善男善女で賑わってくる。金峰神社から高城山展望台、水分神社と雑踏が続くが、山櫻は期待していた豪華絢爛というより、控えめに、妖しく染め上げている錦衣のようにも観えた。まだ蕾が多く人待ち

顔の奥千本。一般観光客で混雑する上千本や中千本の中心道は避け、静かな参道を歩み如意輪寺にでる。吉野杉に包囲されたヤマザクラは勢いが衰え、死に花を咲かせる樹精もあった。観光化した春の吉野の楽しみ方はいろいろあろうが、淡く化粧した山櫻を遠望し、花と一緒に生きる瞬時、風雅に浸れるだけでも有難いことであった。

大和盆地を愛する I 氏の企画で、古代日本を遊行して、櫻に抱かれ、櫻と格闘してきた日本人を想うと、眠っていた遺伝子がわれ等岳人にも目覚めてくるようだった。850 年前吉野櫻の風姿の虜となった世捨て人西行さんがその心象を詠うが旅の縁とする。

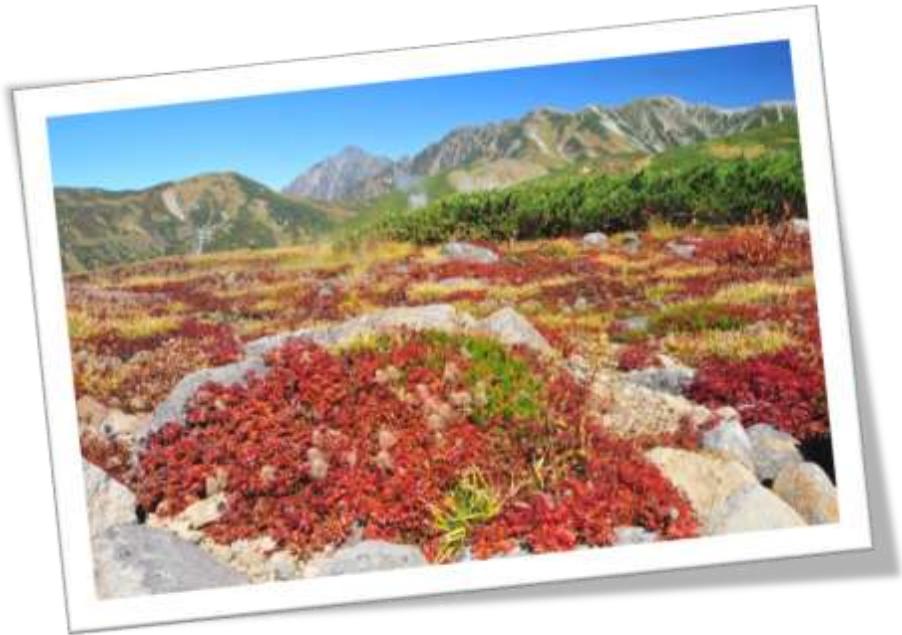
「吉野山梢の花を見し日より心は身にも添はずなりにき」

「吉野山去年の枝折の道かへてまだ見ぬ方の花を尋ねむ」

こうして本年もまた“花見の人”が終わり、奥駆道の一部「山上ヶ岳」の残雪を踏む一班と帰京組に分かれて旅を締めくくった。

終

平成 20 年 4 月吉日



立山室堂平の草紅葉 撮影：川井靖元

山 想 倶 楽 部 会 報 誌    V o 1 : 6

発行日／平成23年0月00日

発行者／日本山岳会同好会：山想倶楽部

編集人／石原達夫 高橋 聡 大塚幸美